

# 労働力調査都道府県別結果（モデル推計値） 平成18年10月～12月期平均結果の概要（広島県）

平成19年3月9日  
統計調査室

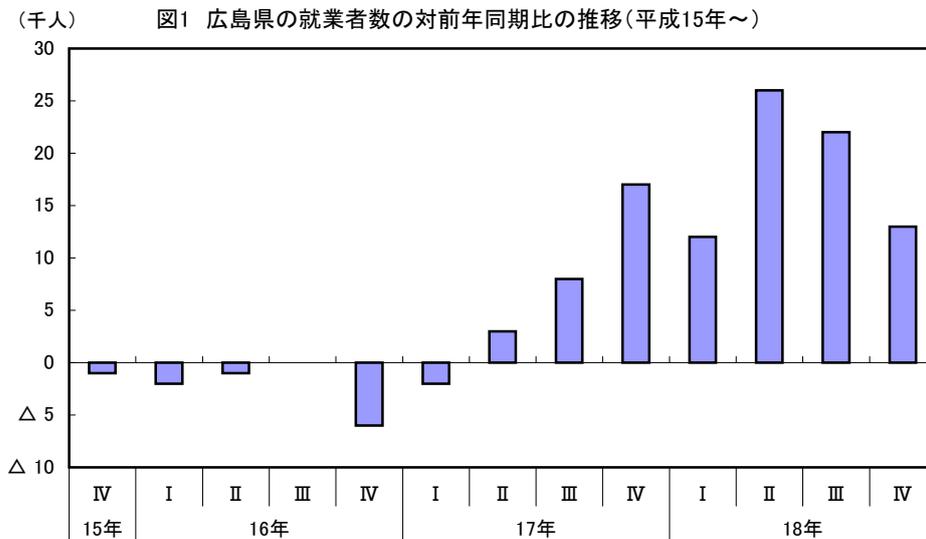
※ 総務省統計局が、平成18年度から労働力調査の都道府県別四半期平均結果（モデル推計値）を公表することになりました。

この結果の概要は、平成19年3月2日付けの公表を受け、広島県の結果についてとりまとめたものです。

次回の総務省統計局の公表（都道府県別結果平成19年1月～3月期平均）は、平成19年5月29日の予定です。

## 〔就業者〕

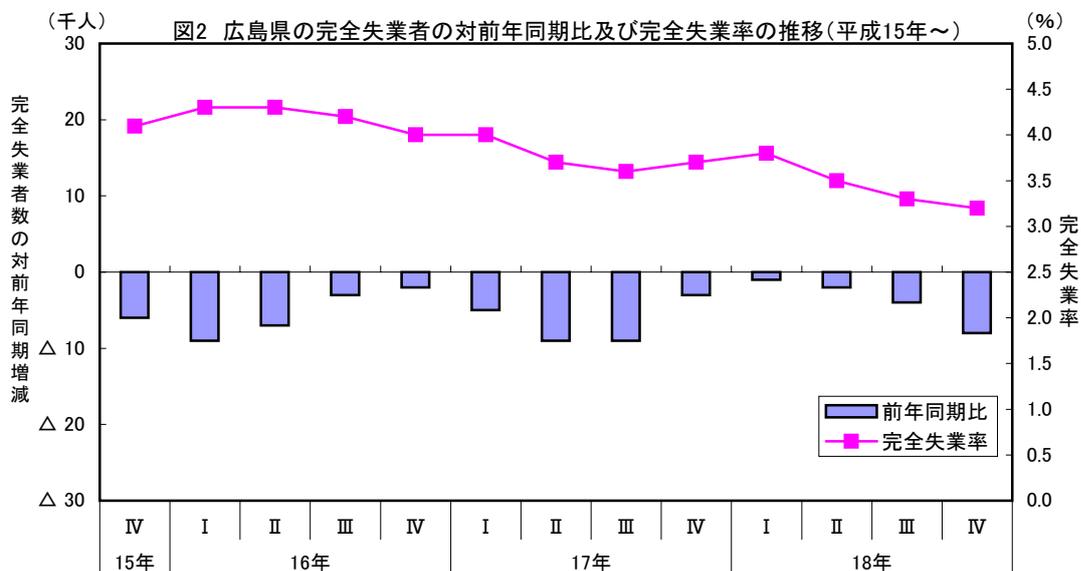
- ・ 広島県の平成18年10月～12月期平均の就業者数は 145万2千人と、前年同期（143万9千人）に比べ1万3千人（0.9%）増加した。7期連続の増加。



## 〔完全失業者・完全失業率〕

- ・ 広島県の完全失業者数は 4万8千人と、前年同期（5万6千人）に比べ8千人（△14.3%）の減少。14期連続の減少。

- ・ 完全失業率（労働力人口に占める完全失業者の割合）は3.2%と、前年同期（3.7%）に比べ0.5ポイント低下した。



労働力調査都道府県別結果（モデル推計値）  
平成18年平均結果の概要について（広島県）

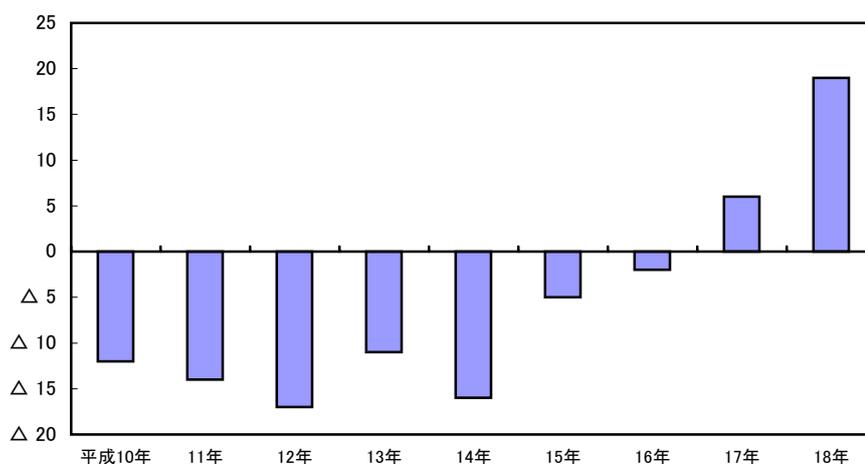
〔平成19年3月9日〕  
〔統計調査室〕

※ この結果の概要は、総務省統計局から公表の平成19年3月2日付けの労働力調査都道府県別年平均結果について取りまとめたものです。（全国の結果については、平成19年1月30日公表結果による。）

[就業者数]

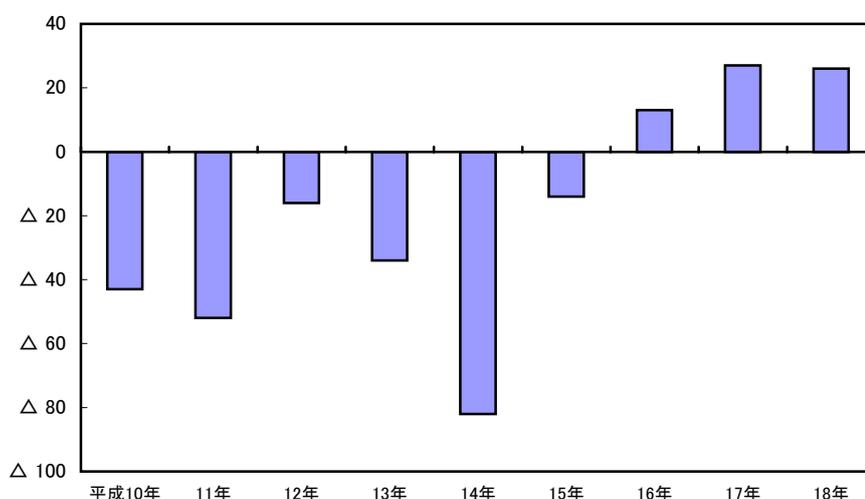
- ・ 広島県の平成18年平均の就業者数は、143万3千人で、前年（141万4千人）と比べ1万9千人（1.3%）増加した。2年連続の増加。
- ・ 就業者数の平成18年の四半期の動きをみると、全ての四半期で前年同期を上回った。

（千人） 図1 広島県の就業者数の対前年増減数(平成9年～)



- ・ 全国の平成18年平均の就業者数は6,382万人で、前年（6,356万人）と比べ26万人（0.4%）増加した。3年連続の増加。
- ・ 都道府県別結果（モデル推計値）の試算が行われている平成9年以降で対前年増減数をみると、広島県、全国ともに平成15年までは、前年と比べ減少が続いていたが、全国は平成16年から、広島県も平成17年から増加に転じ、以後増加が続いている。

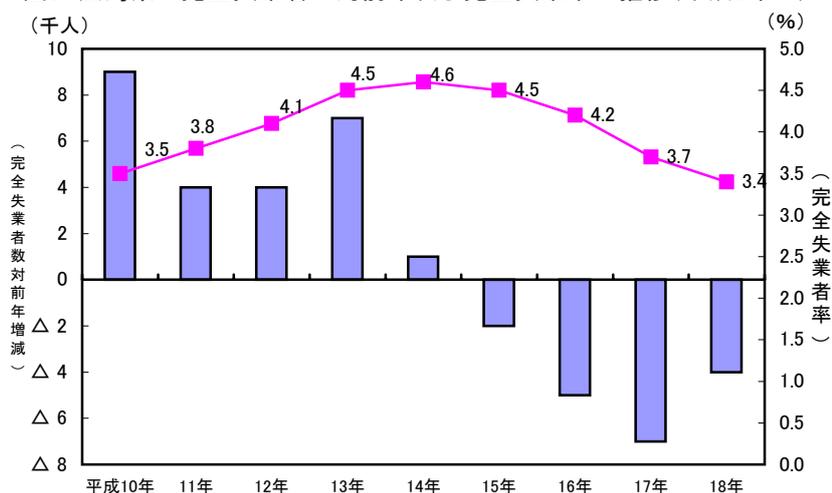
（万人） 図2 全国の就業者数の対前年増減数(平成9年～)



[完全失業者・完全失業率]

- ・ 広島県の平成18年平均の完全失業者数は、5万1千人で、前年（5万5千人）と比べ4千人（△7.3%）減少した。4年連続の減少。
- ・ 完全失業率は、3.4%で、前年と比べ0.3ポイントの低下。4年連続の低下。
- ・ 完全失業者数、完全失業率の平成18年の四半期の動きをみると、全ての四半期で前年同期を下回った。

図3 広島県の完全失業者の対前年及び完全失業率の推移(平成9年～)



- ・ 全国の平成18年平均の完全失業者数は275万人で、前年（294万人）と比べ19万人（△6.5%）減少した。4年連続の減少。また、完全失業率は、4.1%で、前年と比べ0.3ポイントの低下。4年連続の低下。
- ・ 都道府県別結果（モデル推計値）の試算が行われている平成9年以降で完全失業者数の対前年増減をみると、広島県、全国ともに平成14年までは増加が続いていたが、平成15年以降は4年連続で減少が続いている。
- ・ 完全失業率は、広島県、全国ともに平成14年がピークで、その後は低下が続いている。また、平成9年以降一貫して、広島県は、全国を下回って推移している。

図4 全国の完全失業者の対前年及び完全失業率の推移(平成9年～)

